

### ①早めの収穫、②慎重な乾燥作業で、胴割粒発生防止！

こしいぶきは、出穂後の高温により胴割粒が発生しやすい状態になっています。さらに収穫直前のフェーン等、異常高温で胴割粒発生の危険性が高まります。

早急に籾の黄化率を確認し、刈遅れないようにしてください。

#### 【対策】

#### 1 胴割粒の発生を防ぐため早めの収穫

積算気温による収穫適期のめやす（8月23日現在）

移植日	出穂期	収穫適期予想（出穂後積算気温）	
		925℃（1）	900℃（2）
5月12日	7月24日	8月26日	8月25日

※小出アメダスデータ。8月23日まで本年値、8月24日以降は過去10年間の平均値を使用。

#### (1) 籾の黄化率85%で収穫する ～積算気温925℃がめやす～

- ・出穂後高温で推移したため、収穫適期のめやすの出穂後積算気温は通常年(975℃)より50℃早めた925℃とする。
- ・収穫適期は、籾の黄化率85%で判断し、刈遅れによる品質低下を防ぐ。

#### (2) 収穫直前にフェーン現象に遭遇した場合 ～積算気温900℃がめやす～

- ・籾水分が低い（22%未満）時に空気が極度に乾燥すると胴割粒が急増する。この場合は、収穫開始のめやすを出穂後積算気温900℃、籾の黄化率80%程度とし通常よりも早めの収穫を検討する。

#### 2 胴割粒の発生を防ぐため急激な乾燥は避ける

- ・毎時の乾燥速度が0.5%以下となるよう乾燥機の送風温度を低めに設定し、胴割粒の発生を防ぐ。
- ・張り込み時の水分が既に18%程度まで低下している場合は、軽く通風乾燥したあと、夜間まで貯留して水分ムラを解消させてから加温乾燥する。
- ・乾燥機に2段乾燥機能や休止乾燥機能がある場合は活用する。

JA 北魚沼 LINE

稲作情報はこちら→



魚沼農業普及指導センター

HP 稲作情報は、こちら →

（積算気温表は毎週水曜日更新）

